

徳之島事務所（令和7年12月分）管内情勢

農林水産業関連

1 青年農業者会議にて経営改善の取組や成果を発表

11月28日に徳之島事務所大会議室にて、徳之島地区青年農業者会議を開催し、農業者・関係者計26人が出席した。

会議では意見発表1件、プロジェクト発表2件、研修報告等2件があり、5人の青年農業者が発表・報告を行った。プロジェクト発表は2件とも繁殖牛農家が行い、繁殖成績の改善やコスト低減などについて取り組んだ内容と得られた成果の発表があった。

発表後には、参加者からの質問や指導農業士による助言があり、有意義な会議となった。



2 さとうきびの収穫前にハーベスターの安全について学ぶ

12月4日にJAあまみ徳之島事業本部にて、さとうきびハーベスターオペレーター研修会が開催され、生産者等約90人が参加した。

収穫が本格的に始まる 것을踏まえ、機械メーカーから農作業安全対策、始業前・始業後の点検等の説明がされた。今期は10月以降に多くの倒伏が発生し、土手や道路等を覆う状態で、作業性や視認性が悪くなっている。オペレーターからは、収穫が難しいとの声が多かった。

今回の研修で、収穫が終わるまで気を緩めることなく、安全への配慮を継続する意識を再確認することができた。

3 さとうきびの操業が昨期より 10 日早く始まる

さとうきびの原料受け入れが昨年より 10 日早い 12 月 10 日から始まった。

甘しや糖度は 12・31 度（前期 12・25 度）と昨年よりは高いものの、やや低めの糖度である。今期は 4～5 月は低温、6 月までは干ばつ傾向で、一部ではバッタによる食害が見られたために単収低下が懸念されたが、8 月以降は、台風による影響も少なく天候に恵まれ、生産量は 18 万 2500 t と、昨期を 1 万 t 近く上回る見込みである。

4 地域営農を支える農機具やビニールハウスの再利用の仕組みづくりを支援

徳之島地域総合営農推進本部担い手部会では、新規就農者等を対象に空きハウスや中古農業機械斡旋の検討を進めており、今回、畑かんプロジェクトチーム会の協力を得て、畑かん受益地内作付け調査で空きハウスの把握を行うことになった。

また、同取組に先駆けて、天城町では利用していない農機具やビニールハウス、農業資材などを町内の農家や法人が再利用できる取組として「天城町農機具等マッチング事業」を開始しており、コスト低減と資源の有効活用により地域営農を支える仕組みが動き始めている。

5 実えんどうの稼ぐ力の向上を支援

12 月 17 日に天城町農業研修センターにて、実えんどうの出荷協議会が開催され、生産者等計 27 人が参加した。

11 月中旬の台風により茎葉折損が発生したことを踏まえ、当課からは「台風通過後の播き直し技術」及び「生産者が実施した強風対策技術」について情報提供を行った。また、当地域では 12 月下旬～3 月中旬が収穫期であり、単収向上のためには収穫期の草

勢維持が重要となるため、草勢判断方法など今後の栽培管理技術を周知した。

今後、部会員の生産量増加が図れるよう、関係機関一体となり生産者支援に取り組む。